

# 代表質問



大栗 民江  
(公明党)

## 市民対話と情報開示は

**問** 格差社会の中で、社会的弱者と呼ばれている方々への対話のあり方、説明責任はどのようにされているのか。透明性の高い情報をどう提供されていくのか。

**答** 市民の声、手紙、メール、コミュニティ推進員などを活用していただき、回答は文書、広報紙などで行なっている。

## 児童虐待の未然防止は

**問** 児童虐待は、発見や対応が遅れるほど、親と子の両方に手厚い支援が必要になる。近年、増加傾向にある児童虐待の未然防止をどう進めていかれるのか。連携をどのようにされているのか。

**答** 本市においても例外でなく、平成19年、現在まで通告等20件、うち17件が虐待。富良野市要保護地域協議会を設置、ふれあい

広場、広報紙、夜間・休日の通報に対応体制、虐待の未然防止に努めている。

## 障害者福祉の効果的な推進は

**問** 障害は、いつ自分の身に起きるかわからない。障害者自立支援法が施行されての課題は。本来のサービスの確に配慮できるような今後の取組は。

**答** 利用者の負担増や事業者の収入減の課題に、国は3年間の特別対策事業を実施、平成20年度に緊急対策が実施予定。地域生活支援事業の効果的な推進。

## 【その他の質問】

- ◇ 環境問題、地球温暖化防止策
- ◇ 福祉のまちづくり事業
- ◇ 観光経済調査に対する見解と今後の富良野観光の考え方
- ◇ 地域経済振興の具体的取り組みと課題についての考え方
- 教育行政
- ◇ 「問題をかかえる子どももの自立支援事業」の方向性
- ◇ 放課後子ども教室の推進
- ◇ 子ども未来フォーラムは
- ◇ 芸術文化の振興について
- ◇ 図書館の目指す方向性
- ◇ 図書資料の充実について



佐々木 優  
(日本共産党)

## 地域の疲弊の要因は国政に

**問** 政府が強行してきた構造改革は、大企業を応援する一方で、庶民には容赦のない負担増と地方交付税の削減。さらに、原油高騰などで物価を押し上げ、暮らしと中小業者や農家の経営を困難に。貧困と格差社会の広がりが、地域経済を疲弊させ、自治体の財政を困難にしている。その責任は、国政と道政にある。

**市長は、市民の暮らしを守る最高責任者として、市民の願いをしっかりと受け止め、悪政に対する防波堤の役割を果たさなければならぬ。それが市民との信頼関係を築くことである。**

**しかし、執行方針では、その要因を「行政も住民も自らの力で判断する習慣が希薄」としているが、本当にそうなのか。**

**答** 住民自らが地域自治の担い手として、行動が求められる。

## 未収金対策は慎重な対応を

**問** 「貯金、動産の差し押え、インターネット公売の強化、収納対策強化を図る」とある。公平な税負担が基本原則であり、市民は重税感を持ちながらも納税に大変な努力しているが、現状は暮らしに困窮し、税の負担が限度を超えている場合もある。収納には慎重かつ、きめ細かな対応が必要である。具体的に、どのように対応するのか。

**答** 分割納入を勧める。誠意のない人などへは、滞納処分の強化をして未収金の圧縮を図る。

## 後期高齢者医療制度は中止を

**問** 世界で例を見ない命を年齢で差別する医療制度。高齢者をいじめ、長生きを悪とする社会制度の中身が知られるにつれ、各地で中止を求める運動が広がっている。今まさに、地方の声で国の政治を動かす時代に。

**しかし、市長は、高齢化社会に対応した公平な制度と評価してきたが、改めて見解を伺う。**

**答** 将来にわたり安心して医療が受けられる制度と認識。